

イタリア 生産量増加で有望なリンゴyello

EUROFRUIT 2024年1月22日

日本で育種され、イタリアの南チロル地方で栽培されている果皮の黄色い新しいリンゴ「yello」がボルツァーノ市のインテルポマ展示会で正式に発表されてから7年以上が経った。その最初の発売以来、生産量が増加するにつれて、このリンゴは熱心な顧客基盤を構築してきたようである。

このリンゴを販売するライセンスを持つイタリアの2つの大手販売事業者(コンソーシアム)VOGとVIPは、売り上げも着実に増加しているとしている。その需要は旺盛で、卸売業者と小売業者の間で等しく伸びていると言われている。11月初旬頃、両社はyelloが今季も市場に入荷すると発表した。

今シーズンは、慣行栽培と有機栽培の果実の入荷量が少し増える見込みで、両団体はそのすべてが「素晴らしい」出来だと表現している。販売の観点からは、VOGのクラウス・ヘルズル営業部長とVIPのファビオ・ザネスコ契約品種部長の両者にとって、その見通しは明るい。両部長は、「その優れた官能特性のおかげで、yelloはリンゴの専門家や目の肥えた消費者の間で熱心な支持者を獲得している。市場の需要は、イタリアだけでなく、他のヨーロッパ諸国や非ヨーロッパ諸国でも有望である」と説明する。

yelloブランドのリンゴは、ゴールデン・デリシャスと千秋を掛け合わせたシナノゴールドという品種で、鮮やかな黄色の果皮、シャキシャキした果肉、天然の糖度の高さが特徴である。それぞれが、この品種が見出された日本の飛騨山脈 - 日本アルプスとしても知られる - の麓に由来する。

販売事業者らによると、消費者はyelloのエキゾチックな香り、魅力的な淡い黄色の色あい、そしてきめ細かくシャキシャキした果肉を高く評価している。これらの特徴は、非常に多くの品種がひしめく競争の激しいこの分野の市場でこのリンゴを際立った商品にしていると彼らは主張する。また、南チロルのリンゴ生産者にとって、この見た目がユニークな品種の未来は明るいようだ。

執筆者: マイク・ノールズ

メキシコ 2024年産ブルーベリーは平年並みを望む

FreshPlaza 2024年1月23日

メキシコに拠点を置く輸出業者ベリーラバーズ社のヘラルド・ロペス販売部長は、ブルーベリーの需要と価格が著しく上昇した2023年に、メキシコでは収穫量が2019年以来最も少なかったと話す。よく知られているようにペルーが生産量不足で苦戦したため、メキシコの生産者にとっては需要が大幅に増加したが、2023年終盤の数か月間の悪天候のため、注文を満たすことができなかった。

同部長は、「ペルー産ブルーベリーの出荷量が少ないためにメキシコ産の需要が高まっていることは分かっていた。それによって、ブルーベリーの価格はここ数年見られなかった水準にまで上昇した。昨年はずべてのベリー類にとって困難なシーズンであった。夏の高温と、10月から11月にかけての遅い降雨のために、メキシコのほとんどの地域で大部分のベリー類の出荷が遅れた」と説明し、「販売価格は高かったが、需要の増大に対応することは困難であった」と述べた。

同社はメキシコのグアナファト州レオン市に拠点を置くが、国内のいくつかの地域で事業を展開しており、慣行栽培と有機栽培のブルーベリー、ブラックベリー、ラズベリー及びイチゴの4種のベリー類を栽培し、輸出している。古い品種よりも収量の高い最新のブルーベリー品種もいくつか生産している。

2024年の最初の数か月の見通しは、収穫量と出荷量が回復するというものであるが、それはすべて、生産量の増加に有利な天候に恵まれるかどうかにかかっている。同部長は期待を込めて、「今後数か月で出荷量が増えることを期待しているが、それが完全回復に十分な量かどうかはわからない。天候が大きな役割を果たしているが、何週間も気温が低く、これは好ましくないことだ」と語った。

執筆者: クレイトン・スワート